

令和8年度（2026年度）（第1期試験）

東北大学大学院教育学研究科博士課程

（前期課程・一般選抜）

入学試験問題 外国語科目（英語）

注 意

- 1 試験時間は90分。
- 2 問題紙は6枚(表紙を除く)、解答紙は4枚。
- 3 設問Ⅰ、設問Ⅱの解答はそれぞれ別の用紙に記入すること。
- 4 辞書の持ち込み不可とする。

【設問 I】 次の英文を読み、以下の問題に答えなさい。

ここに下記文献の抜粋が入ります。

Jickling, B., Blenkinsop, S., Timmerman, N., & De Danann Sitka-Sage, M. (Eds.) (2018). *Wild Pedagogies : Touchstones for Re-Negotiating Education and the Environment in the Anthropocene*. (pp. 2-5), Palgrave Macmillan.

(p.2 の最初の段落、The earliest experiments から、 p.5 の 2 段落目終わり、into a bold alternative discourse. まで掲載)

また、次の部分に下線を付してあります。

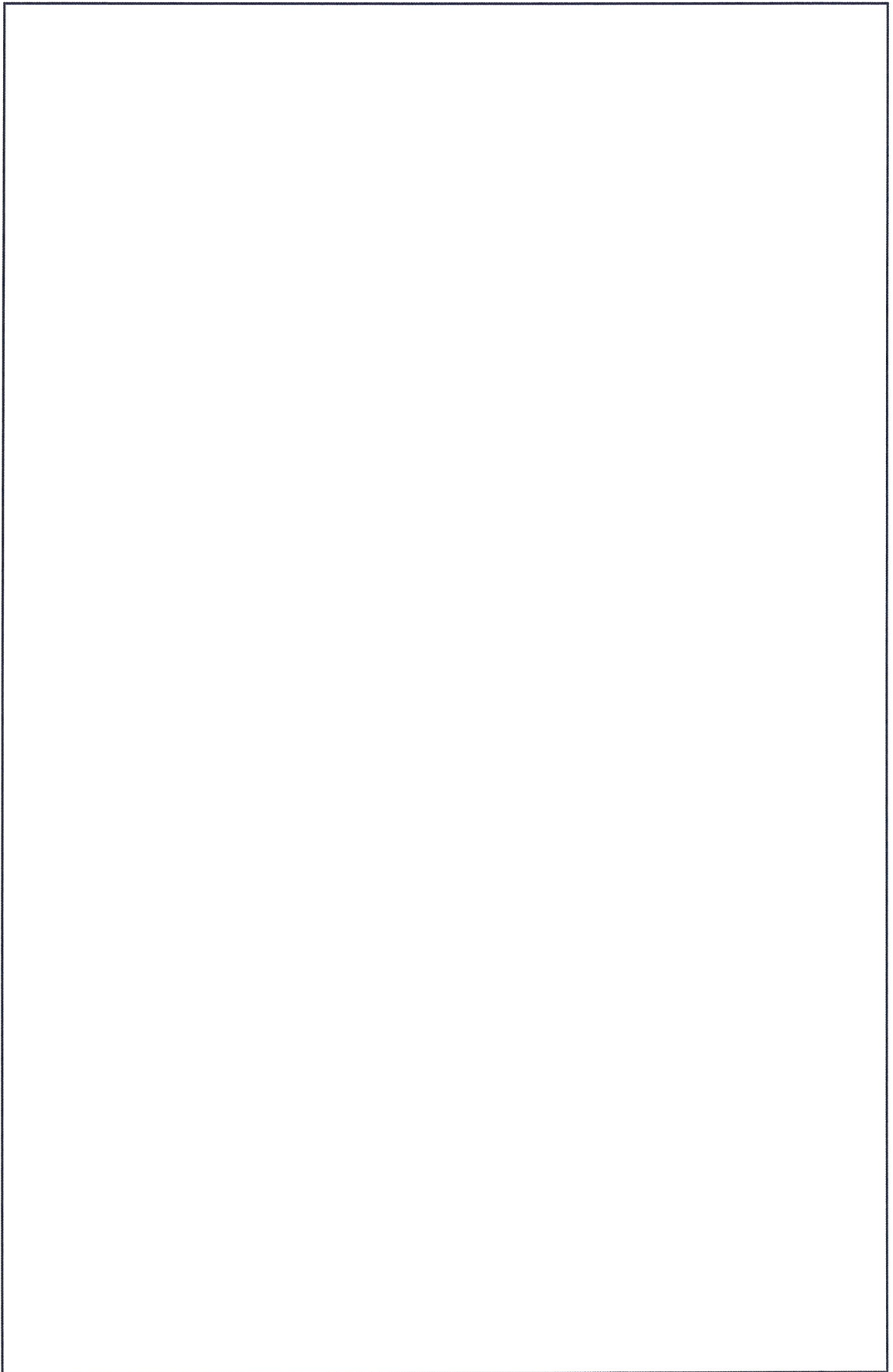
下線部① p.3 上から 4 行目、This suffering から、6 行目、often downplayed. まで。

下線部② p. 3 の第 2 段落の 7 行目、this relationship is から、同段落終わりの across the globe. まで。

下線部③ p.3 下から 6 行目、Something more fundamental から、同ページの最終行、with the natural world. まで。

下線部④ p. 4 上から 8 行目、This move から、12 行目、educational project. まで。

下線部⑤ p. 5 上から 14 行目、However, the persistence of から、同段落終わりの a bold alternative discourse. まで。



(Jickling, B., Blenkinsop, S., Timmerman, N., & De Danann Sitka-Sage, M. (Eds.) (2018). *Wild Pedagogies : Touchstones for Re-Negotiating Education and the Environment in the Anthropocene*. (pp. 2-5), Palgrave Macmillan. より作成)

問題 1 下線部①を日本語に翻訳しなさい。

問題 2 下線部②を日本語に翻訳しなさい。

問題 3 下線部③を日本語に翻訳しなさい。

問題 4 下線部④を日本語に翻訳しなさい。

問題 5 下線部⑤を日本語に翻訳しなさい。

【設問Ⅱ】 次の英文を読み、以下の問題に答えなさい。

ここに下記文献の抜粋が入ります。

Care, E., & Kim, H. (2018). Assessment of Twenty-First Century Skills: The Issue of Authenticity. In Care, E., Griffin, P., & Wilson, M. (Eds.), *Assessment and Teaching of 21st Century Skills: Research and Applications*. (pp.21-39), Springer International Publishing.

(p.23 の大見出し The Assessment Challenge for Twenty-First Century Skills のはじめから、p.24 の小見出し A Focus on Authenticity の最後まで掲載)

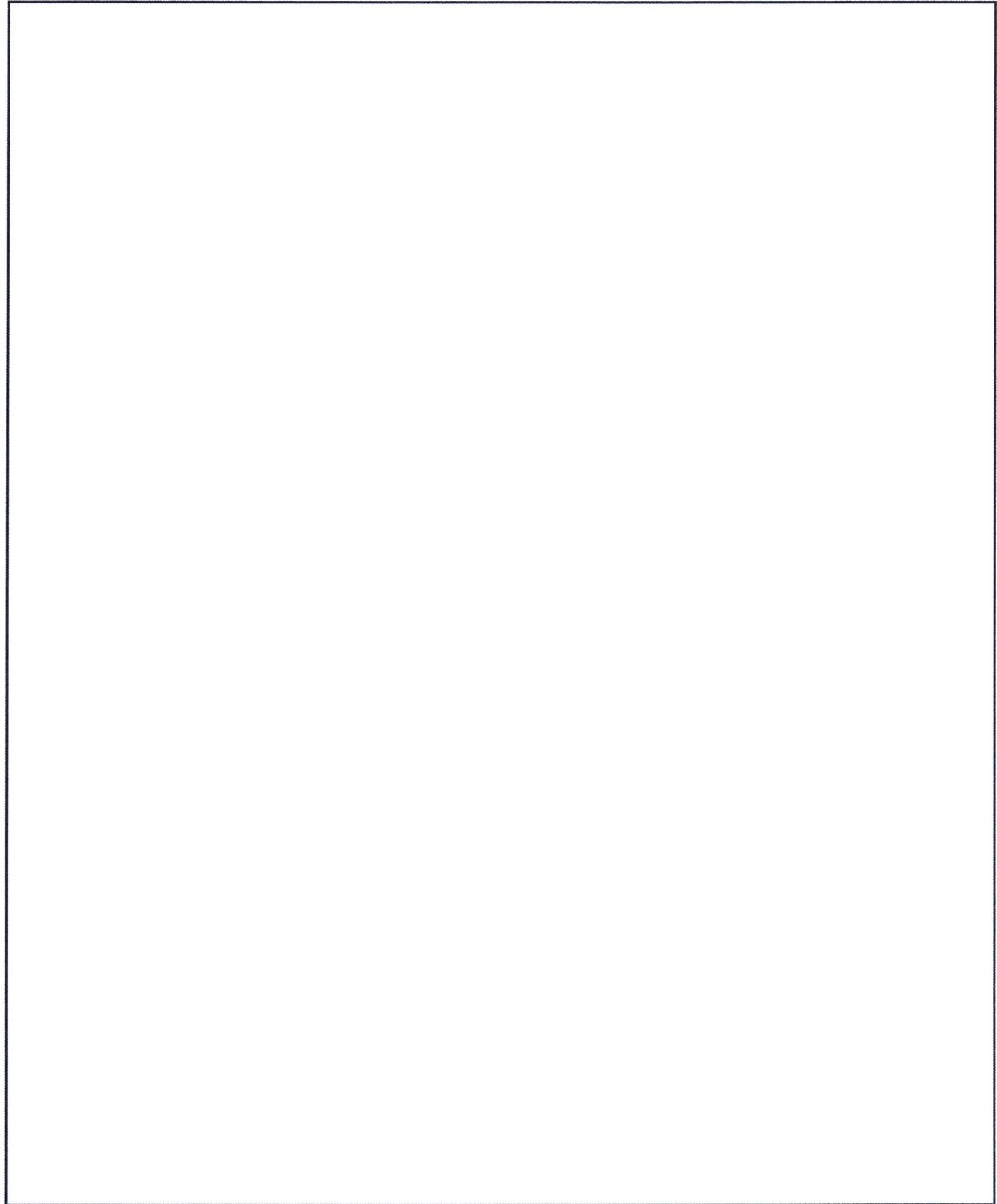
また、次の部分に下線を付してあります。

下線部① p.23 の大見出し The Assessment Challenge for Twenty-First Century Skills の 1 行目、Demonstration of skills or competencies から、同段落の 3 行目、about these traits. まで。

下線部② p.23 の下から 15 行目、Knowledge of the skills から、同段落終わりの at increasing difficulty levels. まで。

下線部③ p.24 の最初の段落の 4 行目、assessment tasks should be authentic.

下線部④ p.24 の第 2 段落の 8 行目、A majority of twenty-first century skills から、同段落 11 行目、drawn from these. まで。



注) behaviour: behavior と同じ（複数形も同様）、hypothesise: hypothesize と同じ、
ATC21S: Assessment and Teaching of 21st Century Skills、infancy: 初期段階、
generalisability: generalizability と同じ、standardised: standardized と同じ、
Student-centred: Student-centered と同じ、generalise: generalize と同じ

(Care, E., & Kim, H. (2018). Assessment of Twenty-First Century Skills: The Issue of Authenticity. In Care, E., Griffin, P., & Wilson, M. (Eds.), *Assessment and Teaching of 21st Century Skills: Research and Applications*. (pp.21-39), Springer International Publishing. より作成)

問題 1 下線部①を日本語に翻訳しなさい。

問題 2 下線部②を日本語に翻訳しなさい。

問題 3 下線部③に記される「**assessment tasks should be authentic**」とは、具体的にはどのようなことか。日本語で説明しなさい。

問題 4 下線部④を日本語に翻訳しなさい。

令和 8 年度（2026 年度）（第 1 期試験）

東北大学大学院教育学研究科博士課程

（前期課程・一般選抜）

教育政策科学コース

入学試験問題（専門科目）

注 意

- 1 試験時間は 120 分。
- 2 問題紙は 5 枚（表紙を除く）、解答紙は 3 枚。
- 3 設問 I（共通問題）は全員解答すること。また、設問 II（選択問題）については、問題紙中に志望する専門領域ごとの問題選択の方法が記してあるので、それに応じて問題を選択の上、解答すること。
- 4 解答は、問題番号を明記の上、問題ごとの指示に従って記入すること。

設問 I : 共通問題 (全員解答すること)

以下の設問を読み、問いに応えなさい。なお、問 1、問 2 で解答紙を 1 枚使用すること。

下の図は、OECD が実施している『生徒の学習到達度調査 (PISA)』の時系列変化を示している。

ここに、下記出典内の図表2-2-2「PISA平均得点及び順位の推移」が入ります。

(出典) 文部科学省『文部科学白書 2024』文部科学省、2025 年、62 頁。

【問 1】 OECD の平均と比べて、日本の「読解力」「数学的リテラシー」「科学的リテラシー」の時間的変化にはどんな特徴が見られるか述べなさい。

【問 2】 問 1 で述べた特徴の社会的要因として何が考えられるか説明しなさい。

設問Ⅱ：選択問題（志望する専門分野の問題を選択して解答すること）

【教育社会学領域】

次の各問いに答えなさい。なお、問1・問2で解答紙を1枚ずつ、計2枚使用すること。

【問1】 以下の語句について、200字程度で説明しなさい。

- (1) 「ビッグファイブ」
- (2) 「知識経済」
- (3) 「傾向スコア」
- (4) 「共分散構造分析」

【問2】 能力主義に関わる以下の問いに答えなさい。

- (1) 現代社会の子供の教育達成に関わる親の階層の影響の実態について説明しなさい。
- (2) 以上の実態から能力主義の現状に関して考えた内容について説明しなさい。
- (3) 以上をふまえて、能力主義的分配やその他の分配のあり方について考えた内容について説明しなさい。

【教育行政学領域】

次の各問いに答えなさい。なお、問1・問2で解答紙を1枚ずつ、計2枚使用すること。

【問1】 表1は「令和5年度公立学校教職員の人事行政状況調査」のうち、「不適切な指導等に係る懲戒処分等の状況（教育職員）」の結果を示したものである（抜粋）。

- (1) 表1全体から読み取れることを記せ。記述数は任意とする。
- (2) (1)をふまえて、不適切な指導の発生を減らす方策を教育行政学的に考察し記せ。ただし、①財源、人材面の資源制約がない場合と、②資源制約がある場合に分けよ。その際、①②ともに小学校、中学校、高等学校それぞれについて解答せよ。
- (3) あなたが都道府県教育委員会の職員だと仮定し、(1)と(2)で検討した不適切な指導の防止策を、教育行政の法制度、組織、政策過程の観点から総合的に検討しなさい。具体的には以下の項目を含めること。
 - a) 法制度上の根拠とその限界
 - b) 教育委員会、学校、その他関係機関との役割分担と責任の明確化
 - c) 政策過程に基づく実施プロセス設計
 - d) 実効性を高めるためのモニタリング体制と情報公開の方法

表1 不適切な指導等に係る懲戒処分等の状況（教育職員）

(1)発生件数

区分	幼稚園	小学校	中学校	義務教育学校	高等学校	中等教育学校	特別支援学校	合計
発生件数	2	184	165	3	134	0	21	509

(2)当事者の年代

区分	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代以上	合計
当事者の年代	58	134	112	205	509

(3)当事者の性別

区分	男性	女性
性別	436	73

(4)不適切な言動・指導等を受けた児童生徒人数

区分	幼稚園	小学校	中学校	義務教育学校	高等学校	中等教育学校	特別支援学校	合計
被害を受けた児童生徒人数	1	516	405	7	491	0	34	1,454

(5)指導当時の状況 注()は、区分ごとの発生件数に対する割合

区分		幼稚園	小学校	中学校	義務教育学校	高等学校	中等教育学校	特別支援学校	合計
(1)場面	授業中	2 (100.0%)	112 (60.9%)	46 (27.9%)	2 (66.7%)	53 (39.6%)	0 (0.0%)	11 (52.4%)	226 (44.4%)
	放課後	0 (0.0%)	9 (4.9%)	26 (15.8%)	0 (0.0%)	19 (14.2%)	0 (0.0%)	2 (9.5%)	56 (11.0%)
	休み時間	0 (0.0%)	36 (19.6%)	16 (9.7%)	0 (0.0%)	6 (4.5%)	0 (0.0%)	3 (14.3%)	61 (12.0%)
	部活動	0 (0.0%)	0 (0.0%)	53 (32.1%)	1 (33.3%)	41 (30.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	95 (18.7%)
	学校行事	0 (0.0%)	5 (2.7%)	3 (1.8%)	0 (0.0%)	2 (1.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	10 (2.0%)
	ホームルーム	0 (0.0%)	7 (3.8%)	5 (3.0%)	0 (0.0%)	1 (0.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	13 (2.6%)
	その他	0 (0.0%)	15 (8.2%)	16 (9.7%)	0 (0.0%)	11 (8.2%)	0 (0.0%)	5 (23.8%)	47 (9.2%)
(2)場所	教室	0 (0.0%)	129 (70.1%)	58 (35.2%)	1 (33.3%)	57 (42.5%)	0 (0.0%)	12 (57.1%)	257 (50.5%)
	職員室	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.6%)	0 (0.0%)	2 (1.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (0.6%)
	運動場・体育館	0 (0.0%)	16 (8.7%)	55 (33.3%)	0 (0.0%)	39 (29.1%)	0 (0.0%)	1 (4.8%)	111 (21.8%)
	生徒指導室	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4 (2.4%)	0 (0.0%)	3 (2.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	7 (1.4%)
	廊下・階段	0 (0.0%)	18 (9.8%)	15 (9.1%)	1 (33.3%)	10 (7.5%)	0 (0.0%)	1 (4.8%)	45 (8.8%)
	その他	2 (100.0%)	21 (11.4%)	32 (19.4%)	1 (33.3%)	22 (16.4%)	0 (0.0%)	7 (33.3%)	85 (16.7%)

(出典 : https://www.mext.go.jp/content/20241220-mxt_syoto01-000039268_44.pdf より出題者作成。最終確認日2025年8月11日。)

【問2】 教育行政学に関する次の語句のなかから3つを選択し、それぞれ200字程度で説明しなさい。加えて、100字程度で当該語句の具体例もしくは近年の動向を記しなさい。

- (1) 学校教育の水準の維持向上のための義務教育諸学校の教育職員の人材確保に関する特別措置法
- (2) 骨太の方針（経済財政運営と改革の基本方針）
- (3) ロジスティック回帰分析
- (4) ガバメントクラウドファンディング
- (5) 無戸籍の学齢児童生徒の就学

【比較教育学領域】

下の文章は韓国における高校平準化政策について説明したものである。文章を読み、各問いに答えなさい。なお、問1・問2で解答紙を1枚ずつ、計2枚使用すること。

ここに、以下の出典中の「学校間の序列解消」から「抽選によって決定される」までが入ります。

(石川裕之「平準化政策 High School Equalization Policy」日本比較教育学会編『比較教育学事典』東信堂、2012年、349頁より抜粋)

【問1】 同様の政策を日本で実施した場合に生じると考えられる課題を3つ挙げ、そのような課題が生じると考えた理由について、それぞれ3行から5行程度で説明しなさい。

【問2】 問1で挙げた3つの課題が高校平準化政策の結果として実際に生じうることを示そうとする場合、どのような研究が考えられるか。3つの課題それぞれについて可能なかぎり具体的な研究構想(何のために、何を、どのように明らかにするか)を立て、説明しなさい。

令和8年度（2026年度）（第1期試験）

東北大学大学院教育学研究科博士課程

（前期課程・一般選抜）

グローバル共生教育論コース

入学試験問題（専門科目）

注 意

- 1 試験時間は120分。
- 2 問題紙は 1 枚（表紙を除く）、解答紙は 2 枚。
- 3 設問Ⅰ（共通問題）は全員解答すること。また、設問Ⅱ（選択問題）については、問題紙中に志望する専門分野ごとの問題選択の方法が記してあるので、それに応じて問題を選択の上、解答すること。
- 4 解答は、問題番号（設問Ⅱについては選択した専門領域）を明記の上、それぞれ別の用紙に記入すること。

設問Ⅰ：共通問題（全員解答すること）

教育のグローバル化の特徴を説明し、それに伴う課題と対策について事例を挙げながら論じなさい。

設問Ⅱ：（志望する専門領域の問題を選択して解答すること）

【国際教育開発論領域】

教育政策における標準化（グローバル基準）と地域化（国家のアイデンティティ、文化、言語）の間の対立関係について、事例を挙げながら論じなさい。

【学校教育論領域】

近年、日本の学校教育における総合的な学習の時間や総合的な探究の時間を支えるための体制づくりが注目されている。その体制づくりに求められる整備、課題および対策について、事例を挙げながら論じなさい。

【多文化教育論領域】

性別や障害、貧困など、複数の社会的属性が交差する外国籍の人びとをめぐる教育の課題について、具体例を挙げて論じなさい。

令和 8 年度（2026 年度）（第 1 期試験）

東北大学大学院教育学研究科博士課程

（前期課程・一般選抜）

教育情報アセスメントコース

入学試験問題（専門科目）

注 意

- 1 試験時間は 120 分。
- 2 問題紙は 6 枚（表紙を除く）、解答紙は 2 枚。
- 3 設問 I と設問 II の両方に解答すること。
- 4 解答は、問題番号を明記の上、設問 I は 1 枚目に、設問 II は 2 枚目の用紙に記入すること。

設問 I つぎの文章を読み, 問 1～4 に答えなさい。解答は, 問 1～4 をあわせて解答紙 1 枚以内にすること。

ここに下記文献が入ります。

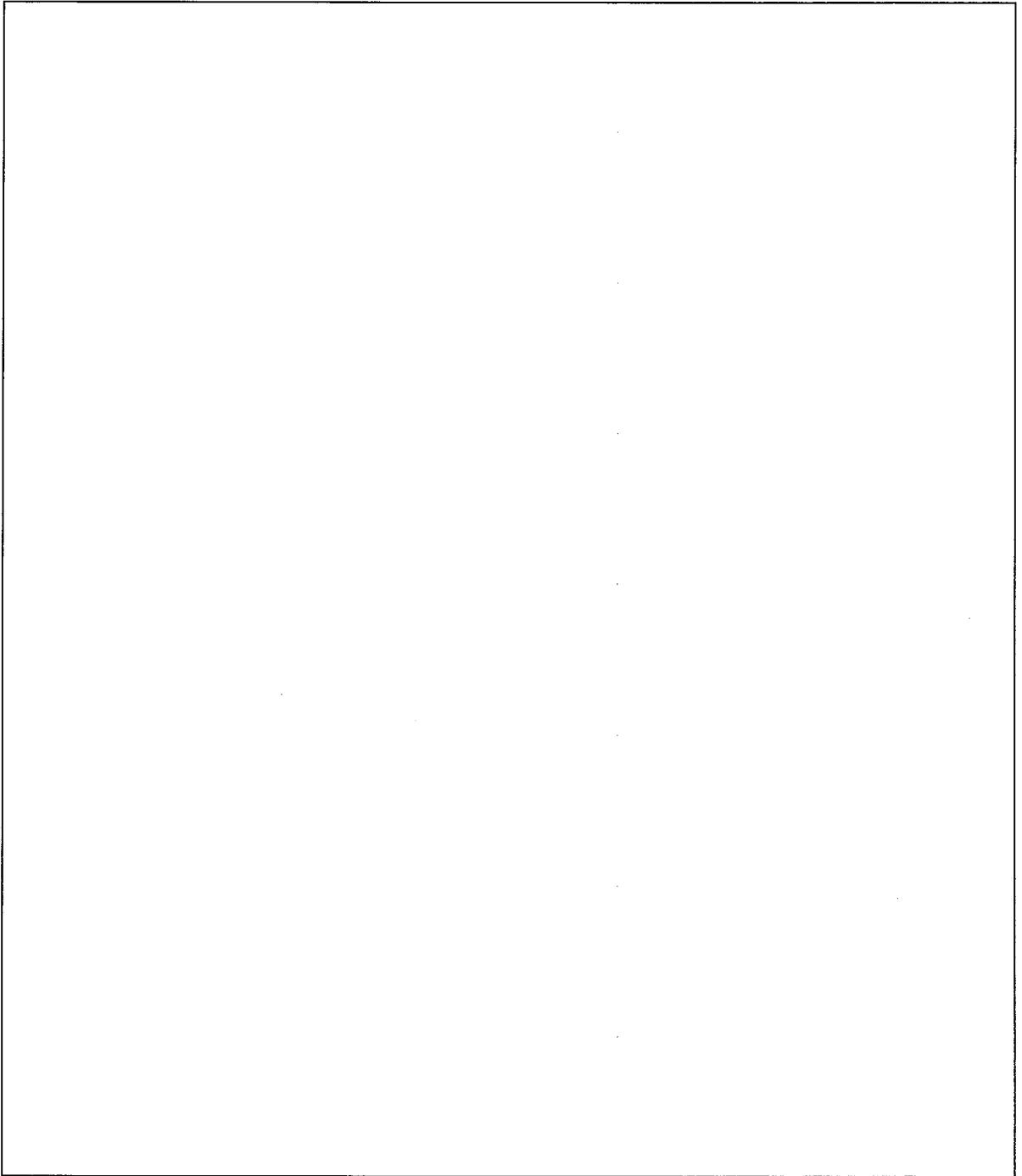
加藤宣夫 (2011) 『「能格」との思わぬ“再会”』 朝日新聞ことばマガジン 2011.
<http://www.asahi.com/special/kotoba/archive2015/danwa/2011110100002.html>

また, 以下の部分に下線を付してあります。

下線部(1) 5 段落目冒頭 「文法上の「格」」

下線部(2) 8 段落目 「コウモリであるとはどのようなことか」

下線部(3) 11 段落目 「他動詞文の動作対象と自動詞文の動作主が, 『格助詞なし』という同一の形をとる」



(加藤宣夫 (2011) 『「能格」との思わぬ“再会”』 朝日新聞ことばマガジン 2011.
<http://www.asahi.com/special/kotoba/archive2015/danwa/2011110100002.html> (最終閲覧日
2025年9月1日) より一部改変)

問1 下線部(1)「文法上の格」とは何か。あなたが知っている言語(日本語を含めて2つ以上)での格の扱いについて具体的な例を挙げて説明しなさい。

問2 下線部(2)「コウモリであるとはどのようなことか」という表現に著者が込めた意味を説明しなさい。

問3 下線部(3)「他動詞文の動作対象と自動詞文の動作主が、『格助詞なし』という同一の形をとる」という事例を、日本語の新聞・書籍・論文などの見出しを想定して例示し、この事例となることを説明しなさい。

問4 見出しのもつ構造的な特徴は、言語(文法)の初期発達や日常的な言語使用における省略表現など、さまざまな言語現象と関連があると考えられる。この点について、あなたの考えを述べなさい。

設問Ⅱ つぎの文章を読んで、問1, 2に答えなさい。解答は、問1, 2をあわせて解答紙1枚以内にする。

ここに下記文献の抜粋が入ります。

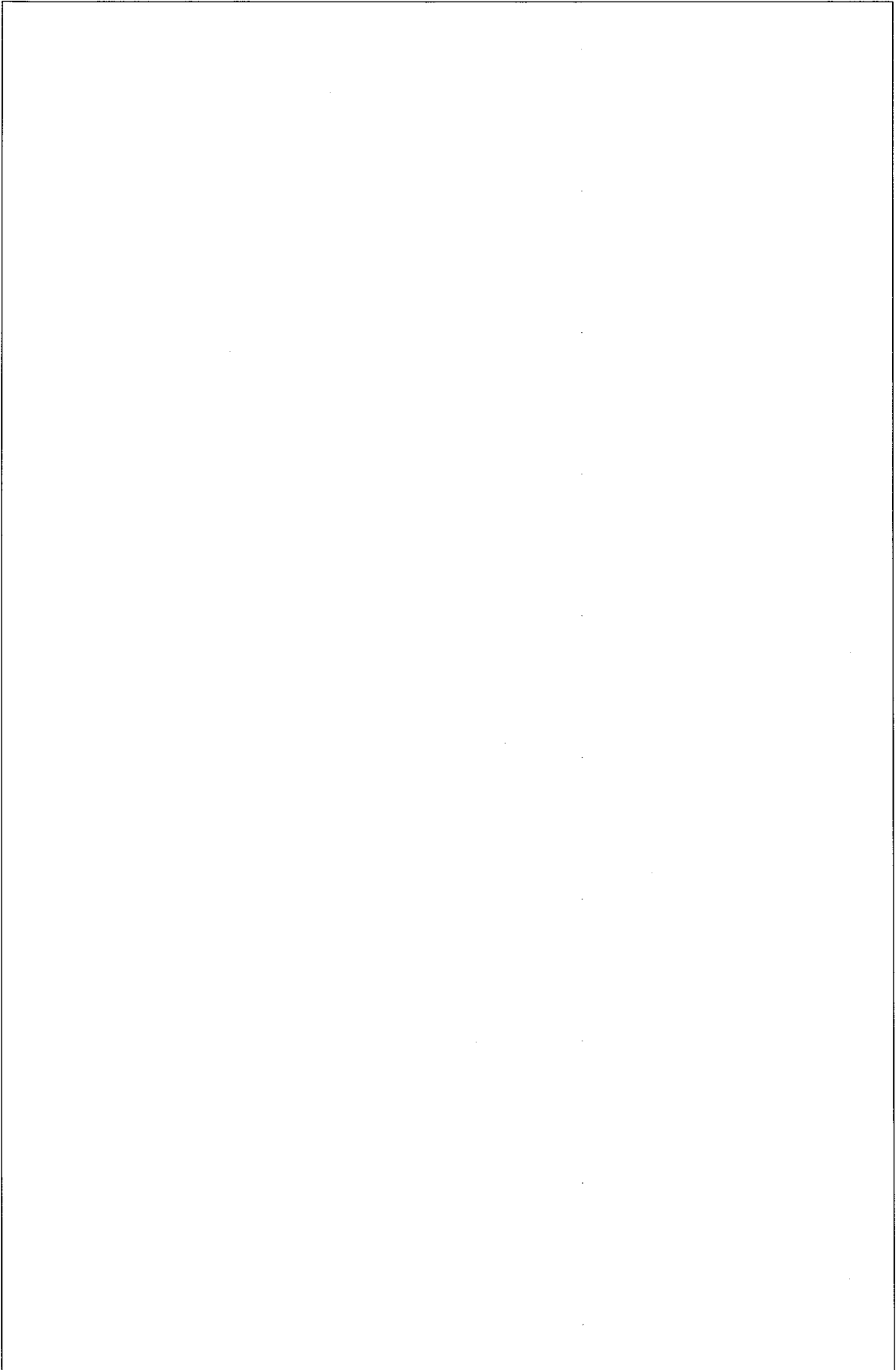
川口俊明 (2020) 学力テストはなぜ失敗したのか—学力調査を科学する— (pp. 131-135) 岩波書店

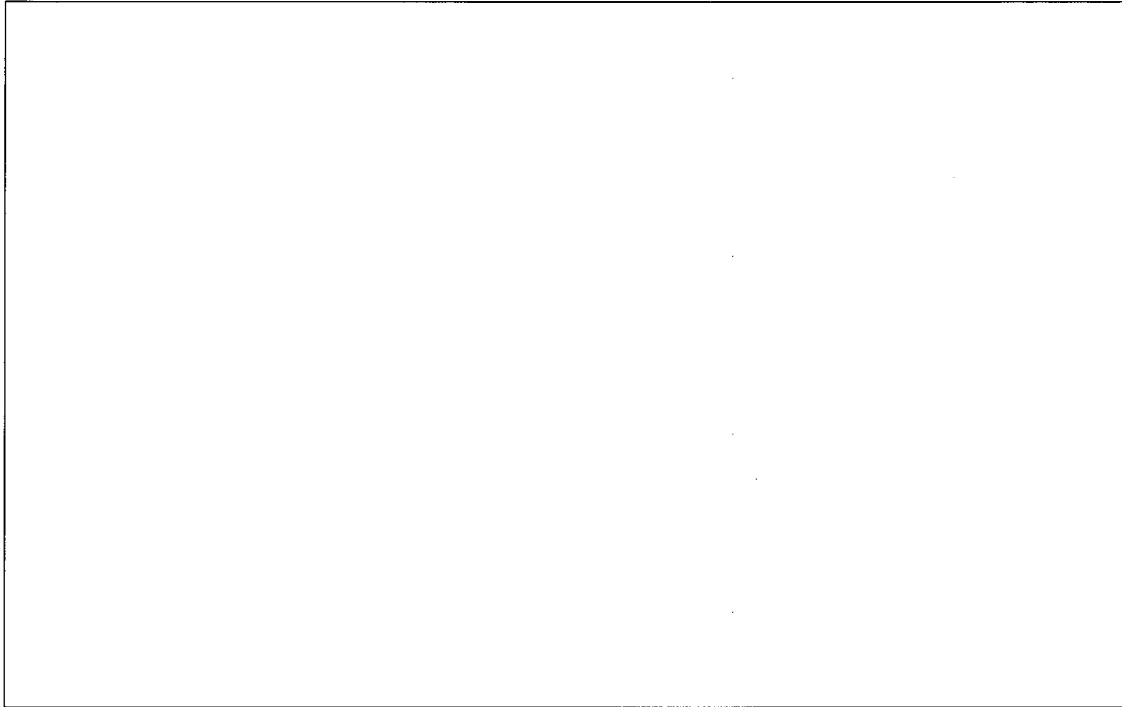
P. 131「何のために全国学力調査が必要なのか」から、P. 135「その最初の一步と言えるかもしれません。」までが抜粋されています。

また、以下の部分に下線を付してあります。

下線部(1) P. 133, 15行目 「学力テストを「飼いならす」ための力」

下線部(2) P. 135, 17行目 「全国学力テストを全国学力調査に変える」





(川口俊明 (2020) 学力テストはなぜ失敗したのか—学力調査を科学する— (pp.131-135)
岩波書店 より一部改変)

問1 下線部(1)にある「学力テストを「飼いならす」ための力」とはどのような力が想定されるかについて、具体例をあげながら説明しなさい。

問2 下線部(2)にある「全国学力テストを全国学力調査に変える」とは、何をどのように変えることが想定されるかについて、具体例をあげながら説明しなさい。

令和8年度（2026年度）（第1期試験）

東北大学大学院教育学研究科博士課程

（前期課程・一般選抜）

教育心理学コース

入学試験問題（専門科目）

注 意

- 1 試験時間は120分。
- 2 問題紙は3枚（表紙を除く）、解答紙は4枚。
- 3 【共通】【A-1】【A-2】・・・の解答は、問題番号を明記の上、それぞれ別の解答紙に記入すること。
- 4 志願する領域によって解答する問題が異なるので、注意すること。

教授学習心理学領域を専攻しようとするものは【共通】

【A-1】【A-2】【A-3】の各問題に解答すること。

発達心理学領域を専攻しようとするものは【共通】【B-1】

【B-2】【B-3】の各問題に解答すること。

発達障害学領域を専攻しようとするものは【共通】【C-1】

【C-2】【C-3】の各問題に解答すること。

< 教授学習心理学領域 >

- 【共通】 対象者に課題を課し、その成績や反応時間などを分析する「実験法」を用いて研究を行う場合の長所と短所について述べなさい。その際、「条件統制」と「生態学的妥当性」という言葉を用いること。
- 【A-1】 授業での知識学習に対する知的好奇心を高めるためには、どのような方法が有効であるか。具体例を示しながら説明しなさい。
- 【A-2】 機械的学習とはどのような学習のことか、その特徴および短所を説明しなさい。また、その短所を克服する方法について具体的に論じなさい。
- 【A-3】 教育における「足場かけ」(scaffolding) について、①「足場かけ」とは何かを説明し、②教授学習における重要性について論じなさい。

< 発達心理学領域 >

- 【共通】** 対象者に課題を課し、その成績や反応時間などを分析する「実験法」を用いて研究を行う場合の長所と短所について述べなさい。その際、「条件統制」と「生態学的妥当性」という言葉を用いること。
- 【B-1】** J.ピアジェ (J.Piaget) と L.コールバーグ (L. Kohlberg) は、道徳性の発達を段階的にとらえるという点で共通しているが、その理論には重要な違いもみられる。両者の道徳性発達理論を比較しながら、それぞれの理論の概要を説明しなさい。
- 【B-2】** 乳児は生後 9 か月頃から「指差し」行動を示すようになる。この行動の発達的な意義について、次の二つの語句両方を用いながら説明しなさい。「三項関係」「叙述の指差し」
- 【B-3】** 青少年の非行や反社会的行動に対して発達心理学的な観点から検討を加える場合、その背景にどのような要因が想定されうるか。具体的な例をあげて説明しなさい。

< 発達障害学領域 >

- 【共通】 対象者に課題を課し、その成績や反応時間などを分析する「実験法」を用いて研究を行う場合の長所と短所について述べなさい。その際、「条件統制」と「生態学的妥当性」という言葉を用いること。
- 【C-1】 障害の個人モデルと社会モデルについて、発達障害を例に説明しなさい。その際に ICF（国際生活機能分類）や障害者権利条約等の概念にも触れること。
- 【C-2】 実行機能の1つであるプランニングの概念、および典型的な測定課題について述べ、自閉スペクトラム症の障害特性との関連について説明しなさい。
- 【C-3】 合理的配慮の概念および法的動向について説明し、学校教育において合理的配慮を推進する際の課題についてまとめなさい。

令和 8 年度（2026 年度）（第 1 期試験）

東北大学大学院教育学研究科博士課程

（前期課程・一般選抜および社会人特別選抜および
外国人留学生特別選抜）

臨床心理学コース

入学試験問題（専門科目）

注 意

1. 試験時間は 120 分。
2. 問題紙は 1 枚（表紙を除く）、解答紙は 5 枚。
3. 解答は所定の用紙に記すこと（設問Ⅰ～設問Ⅲの解答は各 1 枚の解答紙を用いて、設問Ⅳの解答は 2 枚の解答紙を用いて、(1)～(4)を 1 枚目、(5)～(8)を 2 枚目に記入すること）。

…………臨床心理学コース…………

【設問Ⅰ】 統合失調症の①症状や好発年齢、②診断、③治療について述べた上で、統合失調症患者の④心理社会的支援において心理職が果たすべき役割について述べなさい。 (20点)

【設問Ⅱ】 認知行動療法におけるエクスポージャー法の理論的背景と、方法のバリエーションを説明し、その効果と限界について述べなさい。 (20点)

【設問Ⅲ】 心理検査の結果をフィードバックする際の留意点について、3つ挙げて述べなさい。 (20点)

【設問Ⅳ】 以下の用語をそれぞれ5行程度で説明しなさい。 (各5点)

(1) 任意入院

(2) 場面緘黙

(3) アイデンティティ・ステイタス

(4) 認知的不協和

(5) 事例研究法

(6) リフレーミング

(7) P-F スタディ

(8) 参加者内要因

(以下余白)